

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870301074
法人名	社会福祉法人 欣水会
事業所名	グループホーム だんらん
所在地 (電話番号)	茨城県土浦市宍塚1957番地 (電話)029-821-7071

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成20年3月18日

## 【情報提供票より】( 19年 11月 16日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.6人

## (2)建物概要

建物形態	併設/ <input checked="" type="radio"/> 単独	新築/ <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 10,000 円	
敷金	有( ) 円	<input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		30,000円/月	

## (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	7名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86歳	最低	70歳	最高	95歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院・つくば双愛病院・神立病院・天川歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街地から離れた広々とした田園地帯に位置している。天気の良い日は遠くの山並みが美しい。そんな四季の移り変わりが感じられる風景を、広い窓が設けられたリビングで毎日味わうことができる。二つのユニット間は行き来が可能な造りとなっており、利用者同士も気ままにコミュニケーションを取り合っている。職員は利用者の能力や興味や好みを大切にしながら共に会話を楽しみ、ゆったりとした時間を共有している。地元との繋がりも設立当初から強く、地域貢献や地域交流にも積極的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、利用者の自立支援のため出来るだけ職員が手を出さずケアに取り組むよう指摘があり、その反省から本人が出来ることは時間が掛かっても出来るまで見守るよう改善を行った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価の記入については管理者が行った。内容については、職員もきちんと理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	1年程前より2ヶ月に1回開かれている。利用者の日々の様子やホームで行われた避難訓練など、様々な内容について質疑応答を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは積極的にコミュニケーションを取るよう努めている。また、意見や苦情を表すための第三者機関も設けられている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園や小学校との交流のほか、空き缶拾いや防犯パトロールを行っている。また介護予防講座を展開するなどの地域貢献事業も実施しており、地域との交流は極めて盛んである。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念があり、玄関先に掲示してある。内容には「地域に根ざした・・・」との表現もあり、地域との関わり合いの中で、利用者の生活を支えていくことを意識したものとなっている。また、ホーム独自のスローガンもある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を唱和している。職員全員が理念を共有しており、日々のケアに生かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで自主的に空き缶拾いや防犯パトロールを行うなど、積極的に地域への働きかけを行っており、公立保育所や近隣の小学校とも様々な交流が行われている。また法人全体で、地域貢献事業として「介護予防講座」を展開しており、今後は地域を広げて展開していく予定である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票の記入は、現場の職員と相談しながら管理者が記入した。全員が評価票に目を通してはいるわけではないが、内容や意義については周知されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年ほど前から2ヶ月に1回の頻度で行っている。外部評価の結果報告や避難訓練についての質疑、あるいは写真を使用して日々のホームの様子を説明し、ホームに対する理解を深めてもらうよう話し合いをしている。		

茨城県 グループホームだんらん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者は地域密着型の推進委員となっており、協議会において市のメンバーの中で一緒に相談し様々な決り事を話しているため、同時に情報交換の場ともなっている。市とは頻りにやりとりを行う関係である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「だんらん通信」の中で、利用者の暮らしぶりをそれぞれ記入し、毎月家族に知らせている。また、写真も同封している。面会時にも積極的に家族とコミュニケーションをとり、日々の様子を知らせている。現金の管理は本人が希望する以外は原則法人で行っており、使用目的等についての相談を家族と行いながら使用した金額は引き落としで精算し、領収書を家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は面会時に直接口頭にて伝えてもらうことが多い。また、家族会でも要望などを聞く機会がある。特に意見箱の設置はしていないが、直接表しづらい場合にも苦情を申し出る事が出来るように、第三者機関を別途設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期異動以外は出来るだけ避けるよう配慮している。止む終えず退職する場合は、利用者にきちんと挨拶をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で、新人研修から段階的に全員が参加している。研修への参加は勤務として取り扱われており、研修後は必ず報告書を提出して職員会議で内容を報告している。		研修での内容は報告会を行った際の議事録に記載されており、必要に応じて資料のコピーもファイリングされている。また、ホーム内の職員には研修に参加した職員から資料のコピーが配布されているとのことであるが、今後はそれぞれが参加してきた研修会の資料をホーム内でまとめてファイリングし、いつでもケアに生かせるよう更に情報を共有化して頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会をきっかけにつながりが出来ている。また、県南施設長会等の関係で行われるレクリエーションへも積極的に参加し、様々な交流を持っており、法人外の同業者の施設等を見学に行くこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	定期的な見学のほか、空いている部屋があれば宿泊も含めた体験入所も可能である。またホーム内のイベントのある時にデイの利用者がホーム内で過ごしてみたりと、利用者はホームの雰囲気になじみながら馴染んでいくことが出来る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつ喜ばせようと、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現在は女性が多いので、家事に関しては職員よりも得意な利用者もあり、教えられることが多い。また、人生の先輩として共に時間を過ごす中で、職員の気持ちも癒されていると感じながら日々関わっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年に2回ほど利用者にアンケートを行い様々な希望を聞いており、結果について会議で話し合っている。記入が困難な利用者の場合は、家族の協力を得て意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	原則としては担当制であるが、職員全員が話し合いながら介護計画を作成している。また、家族からも要望を聞き、必要に応じて利用者本人とも話をしている。作成後は家族に確認を取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、また必要時には話し合いや見直しを行っている。介護計画を基にケース記録を記入し、職員間で情報を出し合いモニタリングに生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所だけでなくショートステイやデイサービス、また特養など、法人全体で利用者の状況に合わせて対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して受診できるが、月2回協力医療機関の往診があり馴染みになるため協力医療機関の受診を希望する利用者も多いが、以前のかかりつけ医とも情報を共有化し連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前に家族と相談し納得した上で、協力医療機関と連携を取りながら、ホームで看取りを行った経験がある。重度化や終末期については、入所の契約時から繰り返し家族と相談を行っている。現在、同意書等はない。		入所時から家族とは終末期についても十分に話し合いが持たれており、方針の共有化が図られているが、今後は、さらに出来るだけ早い時期に同意書の取り交わしのための準備を行う事が望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重するような声かけや対応に気を配っている。また、個人情報の取り扱いについては、法人の規定がきちんと定められている。	○	個人情報取り扱いについて、現在規定はあるが家族との同意書の取り交わしは行われていない。書式は準備出来ているとの事なので、早急に同意をもらい所内に保管しておくことが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定や自立支援を優先的に考え、1人ひとりのペースを見ながらその人らしく過ごせるよう工夫し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなどの手伝いが可能な利用者は、出来る範囲で行っている。普段の献立にも利用者の希望を取り入れているが、定期的に料理教室を開催したり、そば打ちや餅つき、節分などのイベントも行い食を通じて利用者と職員が協力しあい交流を深めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や頻度は1人ひとりのペースにあわせて対応している。また、入浴の時間を利用者との大切なコミュニケーションの機会と捉えて利用者と接している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事のほか本人が出来ることや得意だったことを積極的にレクリエーション等に取り入れており、毎日をその人らしく生き生きと過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の外出は自由である。散歩ついでに職員が行うゴミ拾いや防犯パトロールと一緒に出掛けることもある。また職員の支援を受けながら個別に外出することもある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに職員はさり気なく利用者の様子に気を配っている。夜は安全面から施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練や救命法の講習受講を行っている。また、管理者が以前に被災地にボランティアとして参加した経験から、備蓄品についてもきちんと確保されている。さらに定期的な訓練を通して職員の意識も高められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の把握がきちんと行われており、栄養バランスについても栄養士の指導の下、必要に応じて個々に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感があり、また花や絵があり暖かみもある。食事以外の時間にも、共有空間でそれぞれがゆったりと過ごせるようなスペース作りの工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ自分の馴染みの家具等を持ち込んでおり、心地よく過ごせる居室となっている。		